

文化創造としての和文化教育
—過去・現在・未来の絆を紡ぐ—

第Ⅰ章 和文化教育の提唱と文化創造

第1節 和文化教育の提唱

中村 哲

第2節 和文化の創生力

山折哲雄

第3節 和文化の教育力

梶田叡一

和文化教育の雪間草 其の一

河内厚郎

第Ⅱ章 和文化教育の研究的展開とその意義

第1節 研究大会の研究内容とその意義

1 全研究大会の研究内容とその意義

關 浩和

2 第4回東広島大会の研究内容とその意義

石川憲之

3 第5回島田大会の研究内容とその意義

大畑健実

4 第11回武蔵村山大会の研究内容とその意義

榊 尚信

5 第12回本荘由利大会の研究内容とその意義

佐々田亨三

第2節 学会誌の研究内容とその意義

1 全学会誌の研究内容とその意義

森 一郎

2 大会講演内容とその意義

湯峯 裕

3 大会シンポジウム内容とその意義

馬野範雄

和文化教育の雪間草 其の二

吉田 廣

第Ⅲ章 和文化教育の教育実践とその特性

第1節 和文化教育のカリキュラム編成とその特性

小林 隆

第2節 幼児教育における教育実践とその特性

—和太鼓を取り入れた可能性—

大浦知加

第3節 小学校における教育実践とその特性

—社会科教科書の伝統文化内容—

佐藤正寿

第4節 小学校における教育実践とその特性

—伝承遊びを取り入れた音楽授業—

桐山由香

第5節 小学校における教育実践とその特性

—学校と博物館との連携—

向井隆盛

第6節 中学校における教育実践とその特性

—詩吟の教育的活用—

井上寿美

八木利津子

第7節 中学校における教育実践とその特性

—武道必修化の現状と課題—

竹繁諒真

第8節 高等学校における教育実践とその特性

—兵庫県学校設定科目『日本の文化』の実践—

齋藤尚文

和文化教育の雪間草 其の三

吉水裕也

第Ⅳ章 和文化教育の教材開発とその特性

第1節 「絵本」の教材開発とその特性	余郷裕次
第2節 「双六」の教材開発とその特性	谷 明子
第3節 「浮世絵版画」の教材開発とその特性	犬童昭久
第4節 「丹波立杭焼」の教材開発とその特性	宗實直樹
第5節 「百人一首」の教材開発とその特性	藤原昌樹
第6節 「能狂言」の教材開発とその特性	岡村宏懇
第7節 「自然体験」の教材開発とその特性	中野照雄
和文化教育の雪間草 其の四	渡邊規矩郎

第Ⅴ章 和文化教育の展望とその視角

第1節 研究としての展望とその視角

1 和文化教育の充実改善とその視角

－日本文化発信力の育成と国際理解教育の推進－

永添祥多

2 和文化教育の幼小中高大の連携とその視角

－言語文化を視角とする幼小中高大接続カリキュラム編成－

今宮信吾

3 和文化教育のデジタル教科書とその視角

－デジタル教科書の開発と活用－

岡崎 均

4 和文化教育のウェブ学習基地とその視角

－ウェブ学習基地の構築と活用－

中村 哲
鈴木正敏

第2節 実践としての展望とその視角

1 地域学校協働活動の連携に基づく教育実践

－多摩市多摩中学校の地域学校協働活動－

前島正明

2 「日韓交流」を意図する博学協働の教育実践

－名護屋城博物館と唐津青翔高校・釜山外国語大学の交流－

松井克行

3 グローバルスタンダードを意図する博学連携実践

－世界文化遺産醍醐寺と京都市立醍醐中学校の連携－

田中直子

4 グローバル文化シンボルとしての「鯉のぼり」活動

中村 哲

出版計画

判型＝B5判縦（横書き（※出版書の判型は、A5版です）

字数＝35字×28行×10頁 原稿は10頁

（※和文化教育の雪間草では2頁）

原稿依頼：令和6年4月

原稿締切：令和6年8月31日（厳守）

出版予定：令和6年10月以降